

現象学的フレーゲ的表象主義にもとづく知覚的クオリアと美的クオリアに関する理解

石巻専修大学 松崎 俊之

私は以前、チャーメーズがその論考「経験の表象的性格」（2004, Chalmers [2010a]）において提唱する「フレーゲ的表象主義」に依拠して知覚的クオリアと美的クオリアについて考察をおこなったのであるが（松崎 [2019]）、チャーメーズも指摘するように、実はフレーゲ的表象主義には「現象学的適切さ」の点で問題が認められ、フレーゲ的表象主義のもとでは経験の表象内容が経験の帯びる現象的性格を適切な仕方で反映することはできないと断ぜざるをえないことになる。本稿の課題はフレーゲ的表象主義の蔵するこの「現象学的適切さの問題」の解消することにあるが、この課題に応えるために本稿では、シューメーカーの呈示する「現象的特性」（もしくは「現われ特性」）の概念をもとにフレーゲ的表象主義にしかるべき改訂を加えることで、「現象学的適切さ」を具えた「現象学的フレーゲ的表象主義（=PFR）」をあらたに構築することを目指す。そしてこの PFR のもとであらためて知覚的クオリアと美的クオリアについて考察をおこなう。